

資料 1

登米市立小中学校等再編構想

# 中学校再編に係る地域説明会

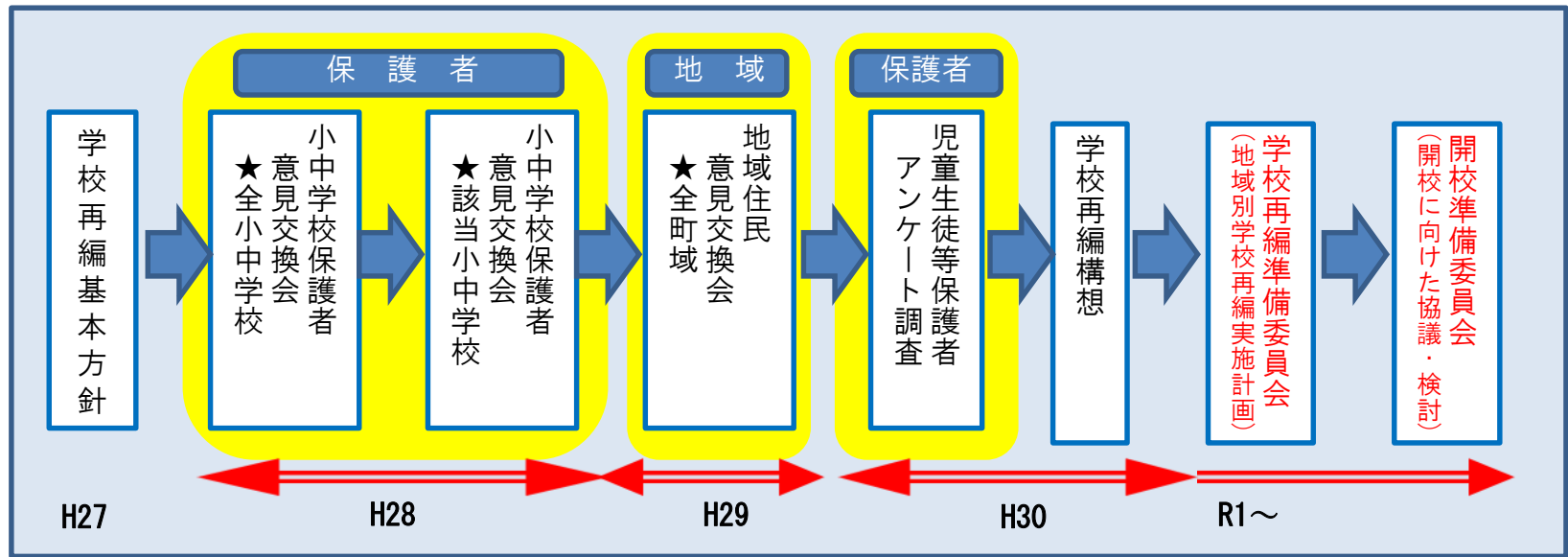
## 【 次 第 】

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 説 明
  - (1) 中学校再編の考え方及び今後の進め方について
  - (2) 中学校再編準備委員会の設置について
- 4 質疑応答
- 5 閉 会

## 登米市立小中学校等再編構想の策定の経緯

平成27年11月に登米市立小中学校再編基本方針を策定後、小・中学校の保護者及び地域住民との意見交換会を行うとともに、児童・生徒、未就学児の保護者を対象としたアンケート調査を実施し、平成31年3月に登米市立小中学校等再編構想を策定しました。また、再編構想は、令和4年4月には中学校再編について改定しています。

学校再編については、保護者や地域の皆様との意見交換をとおして、地域ごとに再編の具体化を目指します。



# 1 基本的な考え方

## (1) 学校の適正規模・適正配置

登米市小中学校再編基本方針に基づき、学校の適正規模・適正配置（※）及び学校施設老朽化への対応等、望ましい教育環境の充実を図ります。

### ※中学校の適正規模・適正配置

適正規模は、少なくともクラス替えができる各学年2学級規模から、より学習・生活指導面等に高い効果が得られる全校で18学級までの範囲とします。

適正配置は、市全域での再編を基本とします。

中学校については、これまでスクールバスによる通学支援を行っていませんでしたが、スクールバスを活用した場合の通学時間は「概ね1時間以内」とし、一定の基準を設定して通学支援を行います。

## (2) 校舎などの有効活用

現有の校舎や施設を活用することで、早期の統合が見込まれることから、必要に応じた施設改修等を行った上で、有効活用を図ります。

改修等に要する財源は、国の補助や合併特例債など、有利な財源を活用しながら進めます。

### (3) 小中一貫校の考え方

中学校の現状では、令和10年度には半数の学校が学年単学級となる見通しであり、小中一貫教育を導入しても、クラス替えができないといったことや配置される教員数が少ないため免許外指導の教科が増えたり、部活動の設置数の制限や指導者確保など、学校規模を要因とした課題の解決には、必ずしもつながらないことも予想されます。

そのため、学校再編基本方針の学校適正配置の基本的な考え方の中で、「小学校は、再編後も小規模校の状態が継続すると見込まれる場合であっても、旧町域に1校は配置することとします。中学校は市全域での再編を基本とします。」としていることも踏まえ、小中一貫校を導入している小中学校については、これまでの取組の成果や課題などの検証を行った上で、中学校の再編と併せてその在り方や方向性を示していきます。

## 2 再編の進め方

- (1) 複式学級の解消や現有校舎の老朽化などを考慮し、早期に再編を進める必要がある地域の学校を選定します。
- (2) 新しい学校を創立するという考え方から、いずれかの校舎を利用する場合においても、「新設統合」を原則とします。



### 早期の改善を必要とする学級規模

- ① 複式学級のある（又は見通しのある）小学校
- ② 学年単学級の小学校
- ③ 学年単学級の中学校（小学校の再編状況等により検討）

### 学校施設の経過年数

- ① 校舎等の建築後経過年数等から今後の活用方針を検討
- ② 統合校舎として活用する場合は、必要に応じた施設改修を行い有効活用
- ③ 廃校となる校舎は、地域の要望等を踏まえ有効活用を検討

### 3 中学校の状況

#### (1) 地域別の中学校の状況

(基準: R2年)

区分		生徒数の推移					学級規模	建築後経過年数			大規模改修
地域	学校	H30	R10	増減率	R20	増減率	単学級	～20年	～40年	41年～	
迫	佐沼	452	410	-9%	350	-23%			●		
	新田	78	69	-12%	40	-49%	H30			●	H20
東和	東和	127	89	-30%	58	-54%	R8			●	H9
中田	中田	413	343	-17%	215	-48%				●	H21
米山	米山	244	179	-27%	114	-53%				●	H14
南方	南方	234	196	-16%	129	-45%				●	H24
津山	津山	90	47	-48%	14	-84%	H30			●	H21
登米	登米	108	86	-20%	53	-51%	H30		●		
豊里	豊里	194	145	-25%	112	-42%			●		H18
石越	石越	117	88	-25%	45	-62%	R2	●			
合計		2,057	1,652	-20%	1,130	-45%	5校	1校	3校	6校	7校

## **(2) 現状と課題**

- ①現在は、新田中、津山中、登米中及び石越中が学年単学級
- ②令和10年度には、半数の中学校が学年単学級となる見通しで、部活動などの集団活動や多様な学習指導体制が困難となる見込み。
- ③半数の校舎が耐用年数の2 / 3 を超過
- ④アンケート結果では、小学校と併せて進める方が良いとの回答が約半数

## **(3) 検討事項と進め方**

- ①令和8年度までに半数の中学校が学年単学級となる見通し
- ②学級規模の適正化、校舎等の適切な改修や更新等を進めることを目的として、将来的な生徒数の推移、通学に要する時間、距離、交通の利便性等を総合的に判断し、必要となる学校数を検討
- ③その結果、市内を4つの地域に区分けして学級規模の適正化を図るとともに、校舎等の改修や更新等を計画的に実施

## (4) 中学校の再編方針

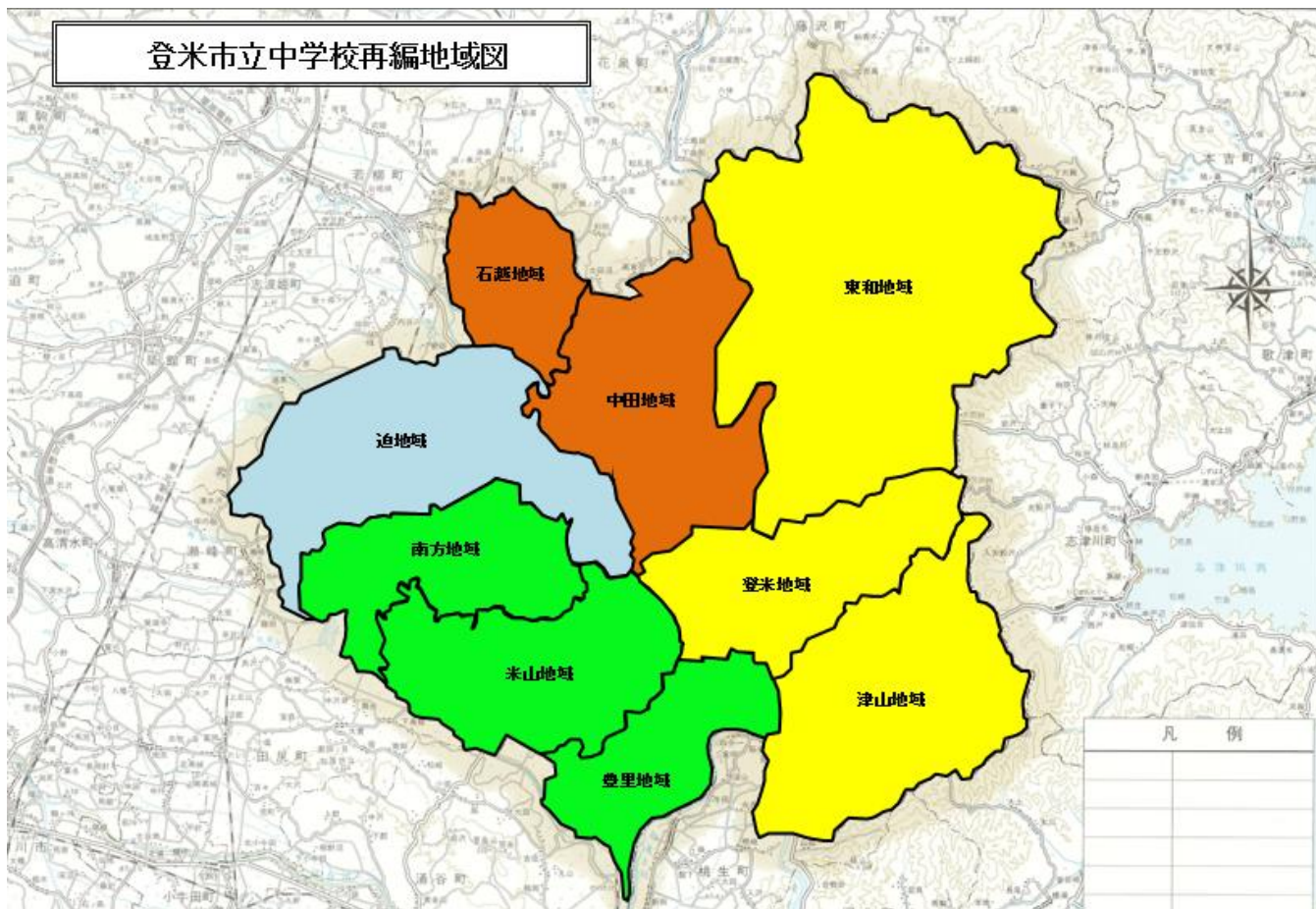
### 地域（中学校）別の再編方針

地 域	課 題		再編方針
	学級規模	施設	
東部地域 (登米・東和・津山)	学年単学級の解消（3校）	経過年数（2校）	3校の統合
北部地域 (中田・石越)	学年単学級の解消（1校）	経過年数（1校）	2校の統合
西部地域 (迫)	学年単学級の解消（1校）		2校の統合
南部地域 (豊里・米山・南方)	学年単学級の解消（2校）	経過年数（2校）	3校の統合



## 4 地域別の再編構想（中学校）

将来的な生徒数の推移、通学に要する時間や距離、交通の利便性などを総合的に判断し、市内を4つの地域に区分けすることで学級規模の適正化を図るとともに、校舎等の改修や更新等を計画的に進めていきます。



## 5 再編計画の期間（中学校）

生徒数の推移や校舎の老朽化対応への検討を考慮し、小学校再編と同様に実施期間を10年程度とします。

※実施の際には、再編新校の位置や通学支援のあり方など市教育委員会の考え方を説明するとともに、統合後の学校運営などについては保護者や地域の方々とともに検討し、合意形成を図りながら進めます。

小中学校再編構想 中学校実施スケジュール

		R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	
①（参考）再編構想改定		→											
②（参考）再編構想改定に伴う説明会			→										
③ 学校再編構想（中学校）		→											
④ 中学校再編の準備期間 （※保護者等との合意形成や開校・閉校準備についての検討、校舎整備など）													
東部地域	登米中学校、東和中学校、津山中学校の3校統合			〔地域説明会〕	→								
北部地域	中田中学校、石越中学校の2校統合			〔地域説明会〕	→						→		
西部地域	佐沼中学校、新田中学校の2校統合			〔地域説明会〕	→					→			
南部地域	豊里中学校、米山中学校、南方中学校の3校統合			〔地域説明会〕	→			→					

## 6 推進に係る配慮事項

「登下校時の安全確保」、「いじめ・不登校への対応」、「学校周辺施設の充実」、「多様な学習指導体制の確立」など保護者アンケートから寄せられた意見や多様な機能を有する学校施設の有効活用など、地域に配慮した取組を進めます。

### (1) 再編に向けた準備事項

- ① 保護者、地域住民、学校関係者等の意見・要望を聴取
- ② 学校やその周辺施設(校舎設備、校庭等)の改善
- ③ 通学環境(通学路等の安全、スクールバス)の検討
- ④ 環境の変化に伴う子どもたちの戸惑いや不安を和らげるため、学校間での児童・生徒の交流活動の実施

### (2) 再編後の学校運営

- ① 不安や悩みを持つ児童・生徒に対する支援・相談体制の充実
- ② 指導形態の工夫によるきめ細かい学習指導の充実
- ③ 学校行事や児童会活動を通じた学校の活性化
- ④ 通学路の安全確保、スクールバスの運行等による利便性・安全確保

## むすびにかえて

登米市の子どもたちが、将来にわたって充実した学校生活を送れるよう、保護者や地域の皆様の理解を得ながら、魅力ある教育環境づくりを進めます。

**「児童生徒が多様な考え方に触れ、  
切磋琢磨することで社会の形成者  
としての基本的資質を伸ばすことが  
できる学校づくり」を目指して**

登米市教育委員会